

授業概要

アジア地域の経済を研究する経済学者や他の領域の専門家は、同地域を日本、中国、東アジア、南アジア、東南アジアの5グループに分類する場合が多い。最近目立つようになった第6番目のグループには、中央アジア地域の新疆ウイグル自治区、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、アゼルバイジャン、モンゴルが含まれる。

中央アジアは、アジアの一部でありながら同じアジアの住民である日本人にとって馴染みが薄い地域である。中央アジアの国名と位置を正確に把握している日本人は多くないだろう。この地域について、身近に感じることができ、また興味を抱かせてくれる言葉がある。それが「シルクロード」である。

この授業では、シルクロードに誕生した中央アジアの国々の民主化と市場化への取り組み、日本の役割について講義する。そして中国の台頭、域内相互依存の深化、国内格差の拡大、社会問題にも着目する。

授業計画

第1回	アジア経済論の視覚と課題
第2回	歴史の中のアジア、世界の中のアジア
第3回	アジア化するアジア—中国の台頭と域内貿易の深化
第4回	ソ連の解体とシルクロードに誕生した国々
第5回	中央アジアのへそ・中国新疆ウイグル自治区
第6回	ウズベキスタン
第7回	カザフスタン
第8回	キルギス
第9回	タジキスタン
第10回	トルクメニスタン
第11回	中央アジア経済と中露
第12回	中国の「一帯一路」戦略と中央アジア
第13回	ロシアの中央アジア戦略
第14回	近現代中央アジアにおけるイスラームの展開
第15回	中央アジアのイスラーム金融
第16回	筆記試験

到達目標

本講義の目標は、中央アジアの人たちとかかわりを持ったとき、相手を深く理解し、正直パートナーとなれるよう、その基礎知識習得をしてもらいたいというものである。

履修上の注意

この授業は、講義形式を中心とするが、受講者の主体的な参加を重視する。この授業で出る中央アジア地域の経済実態や課題について、質問や議論に積極的に取り組んでほしい。試験及びレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。授業開始後30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

予習復習

授業のレジュメを把握し、参考書の該当箇所と新聞・WEBサイトの中央アジア経済に関する記事をよく読むこと。配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

評価方法

成績は、レポート(30%)と期末試験(70%)により評価を行う。

テキスト

最新の情報をもとに講義を進める。だから講義の中では特定の教科書は使用しない。毎回の講義では、随時良い文献などを紹介していく。